

平成 31 年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第 8 回議事録（要旨）

日 時：3 月 15 日（金）午後 6：15～

会 場：かたらいの道市民スペース

出席者：委員 10 名（吉田委員、柴田委員、牛田委員、中里委員、中島委員、北山委員、
島津委員、小餅委員、鬼原委員、山口委員）

事務局 3 名

1 開会

2 議題

（1）平成 31（2019）年度 憲法月間記念行事について【資料 1】

- ・事務局より、憲法月間記念作品の応募状況、憲法月間記念行事講演会について説明。
- ・絵手紙の実行委員会賞の選定。

（2）1 年間をふりかえって【資料 2】

- ・事務局より、平成 30 年度に行った平和事業について説明。

【副委員長】1 年間の感想をお一人ずつお願いします。

【委 員】戦時中の食体験など、新しい試みを行えて良かった。平成 30 年度の平和事業の記録の冊子を作成する際には、大型パネルを作ったことを明記した方が良いのではないか。また、大型パネルの活用方法を今後考えたい。

【委 員】この 1 年間、子どもや保護者に話をした。戦争や平和について保護者がわからないと、子どももわからない。大型パネルを活用して、スイッチを押したら戦時中の音楽が流れるような工夫をした方が良いと思う。大型パネルの貸出しはしないのか。

【事務局】大型パネルは組立てが難しいので、現時点で貸出す予定はない。

【委 員】パネルを何枚も貼るのも良いが、大きいパネルが一枚あるとインパクトがある。学校なら壁面があるので貸出しやすいと思う。

【委 員】1 年間やってみて、知らなかったことがたくさんあった。目で見て理解させるというのは非常に良かった。特に大型パネルは迫力がある。研修会で東京大空襲・戦災資料センターに行って感動した。一般の市民も平和に関する施設に行くことができるツアーがあると良いと思う。平和を伝えるには実物の資料が大きな役割を果たすと思う。

【委 員】この委員会に参加して、今まで知らなかったことを知ることができた。一般の人に興味を持ってもらえるような取り組みができると良いと思った。市外の人で、何か力になりたいと言っている人もいる。様々な人と協力しながら新しい取り組みができると良いと思う。他の委員も言っているが、大型パネルをもう少し工夫したい。平和について、自分でも発信していきたい。

【委 員】今回の研修会に参加できなかったのも、東京大空襲・戦災資料センターにはいつか行きたい。武蔵野からでも、東京の空が真っ赤に見えたのを覚えている。5 月の憲法月間記念講演会で防空法について学ぶことができ良かった。

11月の平和の日イベント講演会では、講師のビナードさんがとてもユニークで、お話を聞いて良かった。大型パネルを作ったことは1つのステップとして良かったが、スイッチを押すと武蔵野の歴史が聞けるような、耳で聞いて楽しめる展示も良いのではないか。来年度の青井先生の講演も楽しみにしている。自分の知識を深めていきたい。

- 【委員】ミニミニ空襲パネル展の写真が小さいという意見があった。他地域の軍需工場があった地域の人と会話する際に、武蔵野にも軍需工場があったという話題を出せるようになった。この委員会で知ったことをどのように活用できるのかを考えている。知識があれば平和な考え方になるのではなく、平和のためにどういうことができるかを考えるのが重要だと思う。この委員会の事業が平和に貢献することを期待している。
- 【委員】高校生でも過去に日本がアメリカと戦争していたことを知らない人がいる。正直に子どもたちに伝えていくべきだと思う。
- 【委員】研修会に行って、東京の空襲が大変なものだったと改めて感じたので、行って良かった。アーサー・ビナードさんの様々な話を聞くことが出来て良かった。夏季平和事業で上映した「この世界の片隅に」も良い映画だった。また改めてじっくり観たい。都立武蔵野中央公園に中島飛行機武蔵製作所の説明板ができたので、受け継いでいきたい。4月に第五福竜丸の資料館がリニューアルするので、多くの人に見に行っていきたい。
- 【副委員長】少しずつでも、新しいことができて良かった。どうやって伝えていくかを考えている。武蔵野市の戦争と平和を語るには中島飛行機武蔵製作所を避けて通ることはできない。武蔵野市には、平和都市宣言や「戦争も核もない世界を武蔵野から」というスローガンもあるので、次世代に伝えていきたい。
- 【委員長】子どもにアプローチする良い方法がないかと思う。今年は戦時中の食体験も開催したが、子どもが少なかった。地域の行事の研究が必要。
- 【委員】話を聞くだけよりも、実際に中島飛行機武蔵製作所のパネルを見せるのが良いと思い、小学校に呼ばれた際に写真パネルを見せながら戦争の実態を話そうとしたら、校長先生に断られた。市外の学校に呼ばれて話をした際は、写真パネルもあってよく理解してくれたと思うので残念に思う。
- 【委員】戦争の話が現実の話と妙に混ざり合ってしまう、保護者は悲惨な話を聞かせるのは良くないと言ってしまう。零戦のエンジンを製造していた軍需工場として、誤解されて持ち上げられてしまうこともある。現在のことだけでなく、昔のことも伝えないとその土地をきちんと理解することは出来ない。写真の資料を用いて伝える必要がある。
- 【委員】中島飛行機武蔵製作所の写真があっても、説明できる人がいないので、さらに伝えていかなければならない。
- 【委員】小学校の副読本のクオリティが高いので、広く販売してほしい。
- 【委員】武蔵野市の副読本を読んでも、中島飛行機武蔵製作所は歴史に織り込まれている。テーマを「平和」のみにするのではなく、様々なテーマを上手に織り込めば良いと思う。
- 【委員】子どもに伝えるには、目に見える資料があった方が良い。飛行機に興味を持ってもらってから、戦争や平和に興味を持ってもらえればと思う。

- 【委員】都立武蔵野中央公園でイベントを開催出来たら良いと思う。
- 【委員】外でイベントを開催するのはなかなか難しい。夏は暑いが、11月のイベントの一環でやると寒いかもしれない。
- 【委員】過去にDVDを作ったが、あれは特別な予算を組んでいたのか。
- 【事務局】通常予算内で作った。
- 【委員】戦後史も含めて、子ども向けのDVDを作るのも良いのではないか。また、武蔵野から伝える戦争体験記録集を活用したい。
- 【委員】市の他の行事と重なっているのは悲しい。季刊むさしのに開催した行事を掲載しているが、平和事業は載っていないので掲載してほしい。
- 【事務局】空襲について以前学んだことがつながってきた。幼少期に学ぶことが大事だと考えている。この1年間のテーマである「生の声を伝える」ことは達成できたのではないかと思う。皆様のお話をうかがって、他の事業に合わせて平和に関するブースなどを出展することも一つの手段ではないかと思った。大型パネルを見て、自分の家の位置がわかると身近に感じられると思う。
- 【事務局】この1年間で平和に関するイベントに携わり、勉強する中で、多くの知識を吸収できた。得た知識をどのように活かすかを考えるために、今後とも皆様のお力をお借りできればと思う。
- 【事務局】皆様から教えていただくことも多く、新しい視点を得ることができた。毎年少しずつ新しいイベントを開催することができて、新しい層に参加していただくことができた。このような取り組みの積み重ねで、引き続き次世代に伝える事業を継続していきたいと思う。

(3) その他

- ・事務局より、広島県の「オンラインで学ぶ平和講座 広島から平和を考える」の紹介。
- ・事務局より、謝礼の支払いと感想文について説明。【資料3】
- ・委員より、西東京市の戦争遺跡フィールドワークと武蔵野市内の戦争遺跡フィールドワークについて説明。
- ・委員より、あきる野市五日市郷土館で展示されていた五日市憲法草案の新聞記事の紹介。

3 閉会